

# ナタネの交雑防止基準

外来品種と交雑を防止するための基準を確立するため、本県固有の在来ナタネ品種‘のらぼう菜’2系統を用いて、3か年にわたりDNAマーカーで交雑の有無を検定しました。

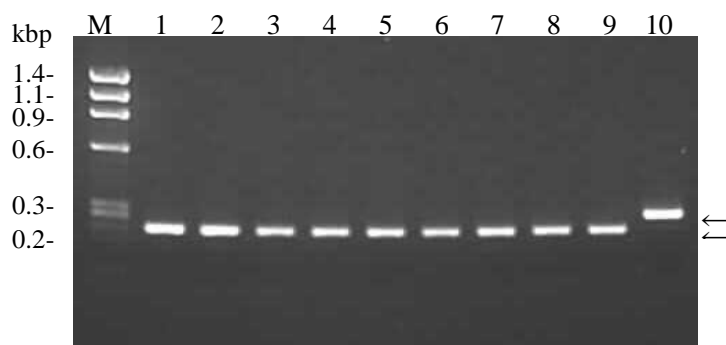


図 ‘のらぼう菜’2系統および交雑検定個体のSSRマーカー多型の検出

‘のらぼう菜’の葉から抽出した全DNAを鋳型にSSRマーカーを用いたPCRにより増幅されたDNA断片。

M: マーカー, 1: 種子親系統, 2~9: 交配個体由来実生, 10: 花粉親系統

SSRマーカーというDNAマーカーの一種を用いると、見かけがそっくりな野菜個体のDNA多型を識別することができます。

約600m隔離された位置に異なるマーカーをもつ2系統の‘のらぼう菜’を栽培し自然交雑させ、のべ1440個体の種子親の実生を3か年にわたり調査したところ、花粉親由来のDNAマーカーをもった交雑個体はありませんでした。

セイヨウナタネは約600mを基準に隔離距離を保てば交雑が防げることがわかりました。